

日本共産党東京都議会議員団

文教委員会理事

とや英津子のニュースレター

TOYA ETSUKO Newsletter

●暮らしの相談は



へ



事務所：練馬区桜台1-6-11 TEL: 03-6324-8060

HP

とや英津子

検索ください

小竹向原駅のエレベーター増設を早く



小竹向原駅の1、2番口にエレベーター増設は、利用者や地域住民の切実な願いです。この間、練馬区議会で住民の陳情書が可決されましたが、直後の新型コロナの流行で動きが事実上ストップになっていました。

コロナも5類になり、鉄道のバリアフリー料金の新設が始まった中、この5月に練馬区と東京メトロの双方に住民の皆さん（小竹向原駅の1、2番口にエレベーターを増設する会）とともに要請行動に行ってきました。

練馬区との交渉
5月14日

「区としてしっかり進めたい」と回答
住民は、東京メトロと西武鉄道との仲介を要望

練馬区との交渉には共産党区議含め総勢8名で臨みました。参加した住民からは「大腿部骨折で10年たつが、階段を下りるのが特につらい。最近タクシーで西武線の他の駅に行くこともある。早く増設して欲しい」との痛切な声が出されました。

対応した区の交通企画課長は、区としても両事業者に要請してきたが、コロナ禍の時期に乗降客が減り経営が不透明で、前に進みづらい時期があった。しかし、4月に両事業者に会い、バリアフリーの推進についてはしっかり進めていくとの回答を得ていると発言がありました。

課題は何でしょうか？練馬区の事業補助金の活用は？

課題は何かの質問に、区は両者の費用負担と駅の構造的な問題で、経営判断の問題もあって一定程度の期間と協議が必要と聞いていると答えました。

また練馬区は、住民の切実な気持ちは良く分かるので、区としてしっかりと進めたいとの態度を示しました。

住民は

- ①区が両事業者をしっかり仲介して実現に前進して欲しい
- ②板橋区とも連携して進めて欲しい
- ③都営光が丘駅のエスカレーター増設工事に区の補助金が交付されているが、小竹向原駅でも西武鉄道に適用できるよう検討して欲しいなどを要望しました。

東京メトロ本社に要請 5月20日

今年になって、西武や練馬区と話し合いを行っていることを認める



要請書を手渡す住民と、とや英津子都議ら（5月20日）

東京メトロ本社にて、地下鉄、小竹向原駅にエレベーター増設を求める要請と話し合いが1年4か月ぶりに行われました。

交渉には、東京メトロからは広報部の堀課長、佐藤課長補佐ら4人が、住民側は練馬から「地下鉄小竹向原駅1、2番口にエレベーターを作る会」の4人、板橋から2人、とや英津子都議、板橋の石川すみえ区議など合計9人が参加しました。

西武や練馬区との交渉再開を確認

交渉では住民の会から、この間の経過と、進展しない問題点は何なのかを問う要請書を手渡し、それに対する説明や回答を求めました。

【東京メトロの回答】

東京メトロの回答は、西武鉄道との話し合いは今年になって行っている。話し合いの内容は、①エレベーター設置の場合の構造上の問題点（既存のエスカレーターや階段と重複する点の調整）②西武鉄道の詰所利用と費用負担の問題 ③全体の費用負担の軽減問題 との説明でした。また、練馬区とも最近情報共有をしているとの説明があり、区からも早期実現を求められたとのことでした。

東京メトロとしては、西武と話し合いは続けているが、2030年までの工事の計画には入っておらず、まだ具体的になっていないことを認めました。

あらゆる知恵を絞って打開の道を切り開きましょう

住民は、「杖を突いてあの長い階段を下りるのは本当につらいので何とかして欲しい」「駅が近いのにタクシーを使って西武線の駅に行っている」高齢者や障がい者にとって切実な問題だとの声があふれ、2006年から始まった要請が、18年も経過して区議会陳情も全会一致で採択されたのに、もっと早く進めて欲しいとの切実な思いが寄せられました。

東京メトロは、住民の皆さんの切実な声は社内にも伝え、一層努力するという回答でした。

とや都議からは、住民の切実な声を受けて事態を打開するために真剣に動いてほしいこと。費用負担の問題が最大のネックになっているのならば「区としての補助金を出してもらおう仕組みの活用」など、具体的な打開策を進めて欲しいと要請しました。

